



©Alfonso Batalla



©Alfonso Batalla

VO

2013年

12/4 (水) 19:00

三井住友海上しらかわホール

Wednesday, December 4, 2013 at 7:00p.m.
MS&D SHIRAKAWA HALL

PIANO RECITAL イーヴォ・ポゴレリッチ

ピアノ・リサイタル

【ベートーヴェン・プログラム】

ピアノ・ソナタ第8番 八短調 op.13 「悲愴」
Piano Sonata No.8 in C minor op.13 "Pathétique"

ロンド・ア・カプリッチョ op.129
「失われた小銭への怒り」
Rondo a capriccio op.129
"Die Wut über den verlorenen Groschen"

ピアノ・ソナタ第22番 へ長調 op.54
Piano Sonata No.22 in F major op.54

ピアノ・ソナタ第23番 へ短調 op.57 「熱情」
Piano Sonata No.23 in F minor op.57 "Appassionata"

ピアノ・ソナタ第24番 嬰へ長調 op.78
Piano Sonata No.24 in F-sharp major op.78

SV14,000 AW12,000 BY10,000

POGGORELEC RECITAL



不可能を可能に変える無限大の情熱

ポゴレリッチの想像力は無限大だ。「音楽を破壊することを恐れてはならない」と本人が語るように、彼の演奏会は毎回衝撃的で、激しい議論的となる。聴き手によっては拒絶反応を示し、一方では大絶賛の嵐を呼ぶ。テンポや強弱の指定を独自の解釈で書き換え、破綻ぎりぎりのところで奇跡的な美を創造する。その過激な美意識は無根拠なものでもなければ、あるひとつの「芸風」に安住したものでもない。ショパン・コンクールを予選落ちし「世にも有名な落ちこぼれの天才」となった1980年代初頭から、ポゴレリッチは極限まで自己の表現を突き詰めてきた。無謀とも言える冒険者の人生だ。その間には、師であり妻であるケゼラーゼ女史の死とポゴレリッチ本人の深刻な精神的危機もあった。人生のいくつもの局面を乗り越えて、本格的な円熟期に入ったポゴレリッチの演奏はますます新鮮だ。

来日リサイタルでは、長い年月をかけて磨き抜かれたショパンとリストのソナタが選ばれた。特にショパンの葬送ソナタは、33年前のショパン・コンクールで彼を一躍有名にした「宿縁の曲」であり、デビューCDにも収録され、年代とともに進化し続けてきたピアニストのライフワーク的なソナタだ。もうひとつのオール・ベートーヴェン・プログラムは、今年4月にポゴレリッチの故国クロアチアのザグレブで披露され、「過去10年で聴いたリサイタルの中でも飛び抜けて見事な、聴き応えのある内容」と絶賛されている。

ポゴレリッチとは何者か。音楽家でありながら、「音楽の外の世界」をも思索させる広大なスケールを持った、唯一無二のピアニストだ。そこではリサイタルの先入観を超える稀有の体験が約束されている。極北の知性と、不可能を可能に変える巨大な情熱が凝縮された、ユニークな時間となるはずだ。

小田島 久恵(音楽ライター)



©Alfonso Batalla

イーヴォ・ポゴレリッチ(ピアノ)

Ivo Pogorelich, Piano

1958年ベオグラード生まれ。12歳からモスクワの中央音楽院で、その5年後からはチャイコフスキー音楽院で勉強を続けた。1976年より著名なピアニストで教育者のアリス・ケゼラーゼに師事。数々の国際コンクールでの優勝に続き、1980年のショパン国際コンクールで本選を前に彼を落選させたことについての論争と、それに抗議して帰国してしまった審査員のひとり、マルタ・アルゲリッチの「だって彼は天才よ!」という言葉によって一躍脚光を呼び、世界的に注目される存在となった。

1981年のカーネギーホールでのデビュー以来、世界中で活躍、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロンドン響、パリ管、シカゴ響、ボストン響など世界有数のオーケストラと共演を重ねている。

若い人への教育にも熱心で、1986年にはクロアチアに若い演奏家をサポートするための財団を設立。1989年より開催しているドイツのパート・ヴェリスホーフでのポゴレリッチ音楽祭では若い音楽家に著名な演奏家と共演する機会を与えている。

また赤十字やサラエヴォ再建、癌や硬化症と闘う人のためにも多くのチャリティ・コンサートを行っている。1988年にはユネスコから親善大使に任命された。

1982年ドイツ・グラモフォンからレコード・デビュー。以来10数点のCDがリリースされ、いずれも人気を博している。

数年間の療養期間を経て2005年に6年ぶりに来日。大論争を巻き起こす型破りな演奏を披露し、完全復活を果たした。以来2007年、2010年、2012年に来日し、常に大きな話題を呼んでいる。

大好きな日本の皆様へ

このたび、日本への来日が急遽決まり、とても嬉しい気持ちでいます。日本に行くことは、私にとってつねに喜びであり、また12月は私が日本でいちばん好きな季節です。私が愛してやまないショパン、リストのプログラムとともに、ここのところ特に心酔している作曲家、ベートーヴェンのプログラムを日本の皆様にぜひ聴いていただきたいです。彼の偉大なソナタ「悲愴」と「熱情」を日本で演奏するのは今回が初めてです。日本でお会いするのを楽しみに!

イーヴォ・ポゴレリッチ

My dear Japanese friends,

I am so glad that my return visit to Japan has just been decided upon. It is always a big pleasure for me to go to Japan, especially in December which is my favorite season in Japan. I hope that the Japanese audiences will enjoy the programme of music by Chopin and Liszt, as it is the programme for which I myself always have great affection, as I do for the Beethoven programme, as this is a composer of whom I am an ardent admirer these days. It is the first time that I will play these great sonatas - the "Pathétique" and "Appassionata" in Japan. I look forward to seeing you very soon!

Ivo Pogorelich

チケットのお申し込み

カジモト・イープラス 0570-06-9960

※音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00~18:00)もご利用いただけます。ホームページからお申し込みいただけます(パソコンもケータイも同じアドレス)。

カジモト・イープラス 検索 <http://kajimotoeplus.com/>

しらかわホールチケットセンター 052-222-7117
しらかわ@ネット <http://www.shirakawa-hall.com/ticket.html>
チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード: 207-695)
e+(イープラス) <http://eplus.jp/wre/>
ローソンチケット 0570-000-407
愛知芸術文化センタープレイガイド 052-972-0430
ヤマハミュージックリテイリング 名古屋店 052-201-5152

便利なケータイサイトもぜひご利用ください。
[モード: EZweb・Yahoo!ケータイ 対応]
チケットもご購入いただけます。



カジモト・イープラス

0570で始まるナビダイヤル番号は、PHS、IP電話など一部の回線からは接続されない場合がございます。NTT加入電話、公衆電話などをご利用願います。

twitter @kajimoto_News

facebook <http://www.facebook.com/kajimotomusic>